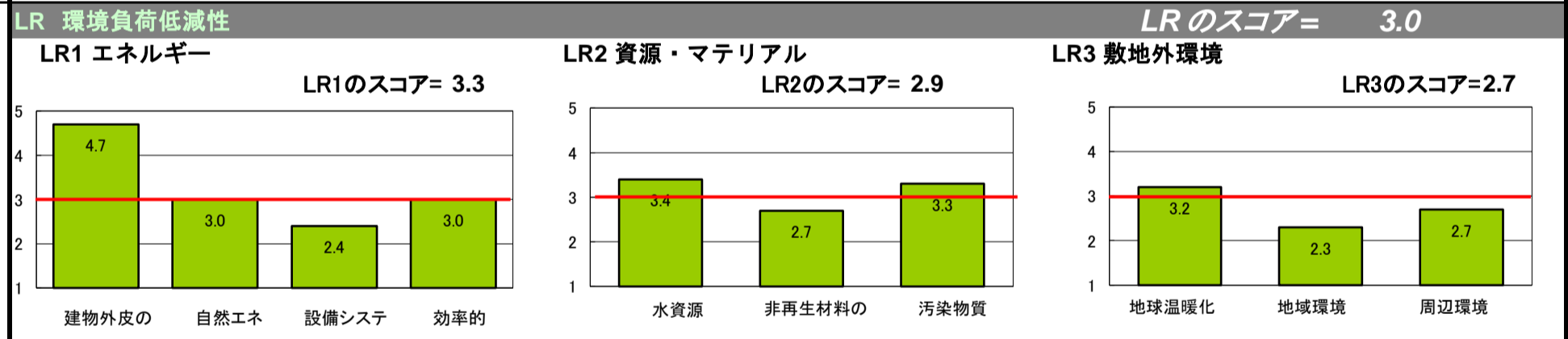
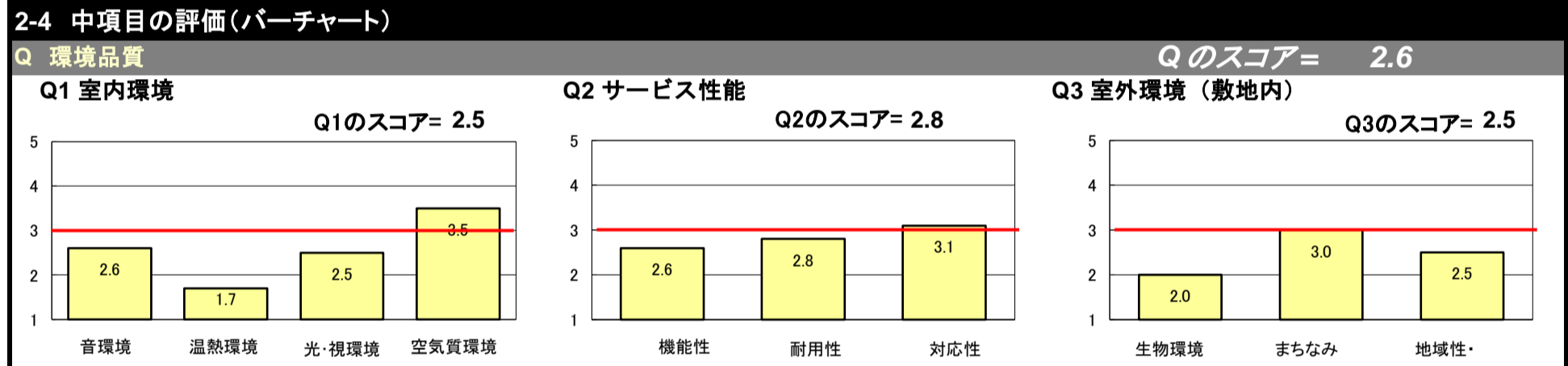
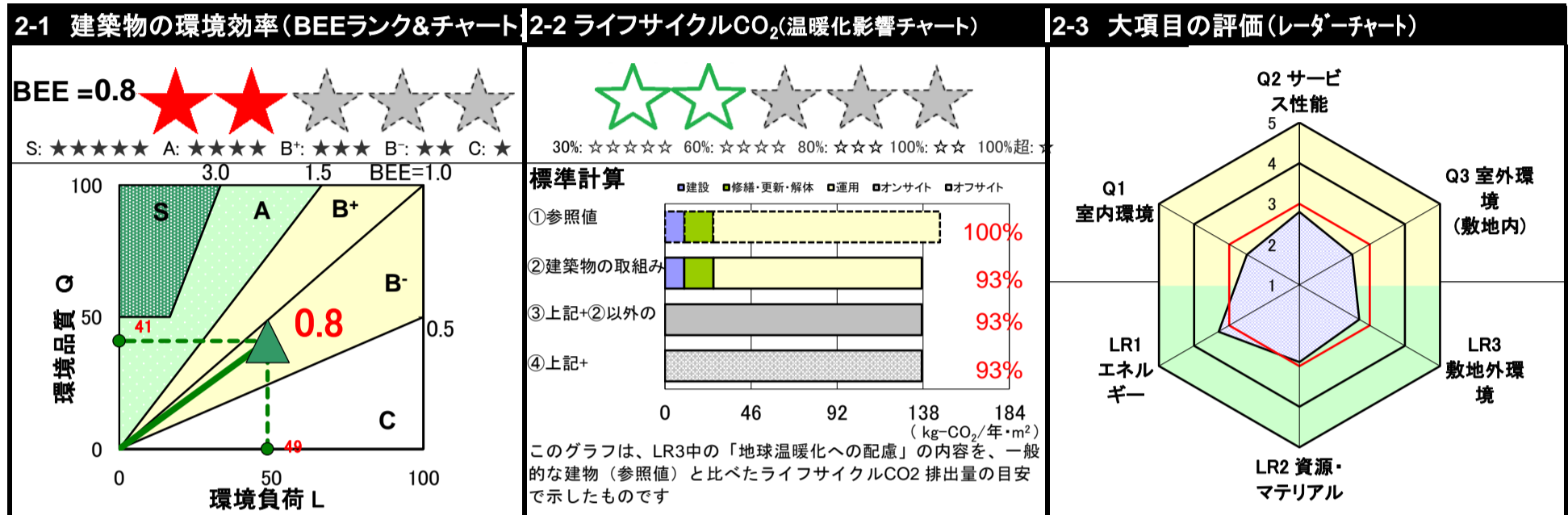


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	医療法人愛知会 家田病院建替	階数	地上5階
建設地	愛知県豊田市歌部西町城ヶ廻33-1,34-1,35-1,35-2,36-1,36-2,36-3,37-1,37-2,37-16	構造	S造
用途地域	地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	775 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年1月10日
敷地面積	4,118 m ²	作成者	石田 壽
建築面積	2,320 m ²	確認日	2022年1月13日
延床面積	7,895 m ²	確認者	家田浩男



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.2</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>37.4 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>11.5 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.8</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
医療法人愛知会 家田病院建替

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				0.2	3.1	0.29	3.2	3.2	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり				0.3	3.4	0.31	3.4	3.4	0.50	
1 階高のゆとり				-	3.0	0.60		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	3.0	4.0	0.40		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		-	3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性										3.0
LR1 エネルギー					-	0.40				3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m = 0.83	3.0	4.7	0.30				4.7
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化				3.0	2.4	0.30				2.4
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-	-				
4.1 モニタリング				-	-	-				
4.2 運用管理体制				-	-	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				2.9
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS使用している。	3.0	4.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68				
1 消火剤				-	-	-				
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	-	4.0	0.50				
3 冷媒				3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30				2.7
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して93%。	-	3.2	0.33				3.2
2 地域環境への配慮				0.3	2.3	0.33				2.3
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自		-	3.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33				2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1 騒音		独自		-	3.0	1.00				
2 振動		独自		-	-	-				
3 悪臭				-	-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1 風害の抑制				-	3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	1.0	-				
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	1.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

医療法人愛知会 家田病院建替

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:37.4%/建物緑化:11.5%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 医療法人愛知会 家田病院建替

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	住居・宿泊部分: $1.25\% \leq$ [昼光率]。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。
Q2 サービス性能	個室 10m^2 /床以上。 病室の天井高 2.5m 以上。 $0.1 \leq$ [壁長さ比率] < 0.3 。
Q3 室外環境(敷地内)	建物を周辺のまちなみや風景に調和させている」「植栽により良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	BPI _m = 0.83
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物に対して93%。
その他	特になし。